

凡 例

収録範囲

1984年から1985年までの2年間に行われた日本国内の舞踊公演を、年代月日順に掲載した。また、舞踊に関連した諸事項は、備考欄のほかに、受賞、出版、物故者の欄を別に設け、外国の舞踊団に関しては、来日公演のみを収録した。

データの確認は、「私の舞踊史 上・中・下」(村松道弥)、「江口隆哉と芸術年代史」(雨宮安一郎・監修)、「バレエ年鑑」、「現代舞踊年鑑」、各舞踊団作製の年史等を参照したほか、プログラムなどの一次資料や各種図書資料、および所蔵者に直接問い合わせて正確を期した。

記載形式

記載事項欄は、各ページ左から、A) 年月日、B) 主な舞踊公演、C) 備考 の3種からなる。各年ごとの最後に、その年のD) 受賞、出版、物故者をまとめた。

A) 年月日

例：1985年10月3日の場合 = 1985.10.03

B) 各舞踊公演のデータ配列に使用した略称は以下のとおり。

原則として、公演名(上演された劇場・場所)主催者名「作品名」の順に続き、各役割の略称は以下のとおり。

略称：主催 = 催	振付 = 振	構成 = 構	演出 = 演	台本 = 台
出演 = 出	作曲 = 曲	指揮 = 指	演奏 = 奏	美術 = 美
衣裳 = 衣	照明 = 照	舞台監督 = 舞監		

作品が複数発表された場合で、すべて記載できない場合に限り最後に“他”、出演者多数ですべて記載できない場合に限り出演者の最後に“等”を付した。

データ中の読点(、)は、人名が列挙される場合の区別に使用したが、人名に続いて、「作品名」、役割名(振 = 出 = など)が入る場合は、全角スペースで離し、読点はいれなかった。

上演月日の不明な公演は、その月の最後に掲載した。

C) 備考

舞踊公演以外の出来事で、当時の舞踊界の様子伺える項目、海外公演、舞踊界を取り巻く周辺の出来事などを入れた。各年の最後アミ掛けの欄に、文化庁在外芸術研修員の名を挙げた。

D) 受賞、出版、物故者は、各年の最後に記載した。なお、物故者の出生年月日、出生地は明らかにできた限り載せた。

統一表記

人名、作品名、団体名：初演当時の表記を尊重したので、時代とともに不統一になったものや、旧式の表記も生じた。

会場名は、時代とともに呼称が変化したものがあるが、当時の通称をそのまま表記した。

役柄名もまた、当時のプログラム等の表記に従った。